

# 協議会ニュース

No. **156**

2017. 9



## Contents

|    |                                                             |         |       |
|----|-------------------------------------------------------------|---------|-------|
| 02 | 自然環境サポーター養成講座②<br>生物(両生類)分類・生態研修会                           | 事務局     | 石原 則義 |
| 03 | "EAT LOCAL & THINK LOCAL and GLOBAL"<br>2017 年 県協議会交流の日 ご案内 | 東三河支部   | 星野 芳彦 |
| 04 | センス・オブ・ワンダー キッズ自然観察会                                        | 名古屋支部   | 石樽 純子 |
| 05 | あいちの自然観察会 新緑の雑木林                                            | 名古屋支部   | 滝田 久憲 |
| 06 | 福井県敦賀の自然をたずねて                                               | 知多支部    | 牧野 靖子 |
| 07 | [連載] 竹クラフト第二回「お箸、菜箸」                                        | 名古屋支部   | 高木 和彦 |
| 08 | フィールド今昔「善師野」                                                | 尾張支部    | 平井 直人 |
| 09 | ヒアリの見分け方と対処法                                                | 調査・保全担当 | 瀧崎 吉伸 |
| 10 | 理事会報告(平成 29 年度第2回)                                          | 事務局     | 石原 則義 |
| 11 | 理事会報告(平成 29 年度第3回)                                          | 事務局     | 石原 則義 |
| 12 | 行事案内/新会員紹介/編集からのお知らせ/編集後記                                   |         |       |

今号の表紙

「ニホンハッカの花と空」久米未祐(尾張支部)

自然環境サポーター養成講座②

# 生物(両生類)分類・生態研修会

主催:愛知県自然観察指導員連絡協議会 後援:日本自然保護協会・愛知県  
本事業は「あいち森と緑づくり環境活動推進事業」の助成を受けて実施します。

日時:平成29年10月9日(月・祝)13:30~16:30(受付13:15~)

場所:ウインクあいち13階1302 名古屋市中村区名駅4丁目38 Tel 052-571-6131

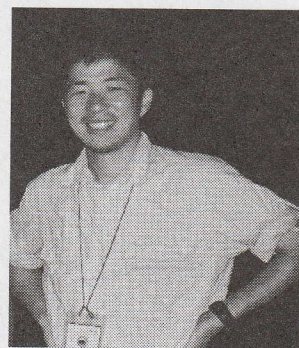
(JR・地下鉄・名鉄・近鉄)名古屋駅より・JR名古屋駅桜通口からミッドランドスクエア方面  
徒歩5分・ユニモール地下街 5番出口 徒歩2分

## 《プログラム》

### 第一部 講演(13:30~15:50)

演題／愛知の身近な両生類の分類と自然史

講師／島田 知彦 氏



島田知彦 先生

#### 講師プロフィール

長野市生まれ。博士(人間・環境学)。愛知教育大学理科教育講座准教授。  
ボルネオ島をはじめとする東南アジアの両生類の系統分類学に携わる傍ら、愛知県の  
両生類の自然史的な研究や保全活動にも取り組む。著書に「たんぼのカエル」(愛知  
みどりの会)、「ボルネオ島の両生類 -その多様性をさぐる-」(愛知教育大学ブックレ  
ット)。

#### 講演要旨

「田んぼのカエルが減っている」という話はよく耳にしますが、ひとくちにカエル  
といっても色々な種類があり、その来歴ひとつとっても、南方系のものから北方系の  
ものまで様々です。種類を個別に見ていくと、水田の利用の仕方にもそれぞれの事情  
があるようで……。人と両生類が出会う場所、水田を主な舞台として、そこに暮ら  
すカエルたちの分類と自然史について紹介します。

### 休憩(15:50~16:00)

### 第二部 討論(16:00~16:30)

研修会終了後、講師を囲んで懇親会を行います。

※多数のご参加をお待ちしています。



# “EAT LOCAL & THINK LOCAL and GLOBAL”



『2017 年度 県協議会交流の日 ご案内』



東三河支部 星野 芳彦

来る 2017 年 10 月 29 日(日)は、「県協議会交流の日」です。今年度は、東三河支部が担当いたします。

愛知県の各地域ではそれぞれ実情に即した自然観察会が企画・運営されています。ただ、担当地域以外の活動に接する機会は研修会や総会を除くと、観察会へ直接参加しない限り、ほとんどありません。そうした現状から毎年実施されているのが「交流の日」です。この機会を生かして、自分たちの今後の活動につないでいきませんか。

ご承知のように東三河支部は、NPO 法人のため、構成メンバーは、すべて NACS-J のネイチャーガイドではありませんし、観察地を特定した定例の観察会だけでなく、「地域観察会」とよぶ、4 班編制の各班が中心となって企画・運営に当たる観察会が活動の核となっています。

例年、その年の最終回となる地域観察会の実施後に、「芋煮会」と称してアウトドアで「芋煮鍋」を囲んで会員相互の親睦を深めています。



そこで、今回は「交流会」として他支部のみなさんをこの「芋煮会」にご招待いたします。

特に今年は地域の食材を多く取り入れたメニューで、地産地消やジビエなどの食のあり方や私たちの生活と自然との関わり方などを考えるチャンスになればと企画しています。

「交流の日」当日の午前に実施される観察会の後、公園内の野外施設で行いますから、まずは観察会へお越し下さい。

## 第4回 岩屋緑地自然観察会

**テーマ:** 秋の岩屋緑地でドングリをさがそう！

**開催地:** 岩屋緑地 (豊橋市大岩町)

**見どころ:** 地形や地質として岩屋観音周辺の(チャートの大岩)や、アベマキ、コナラなどのドングリ探しや岩屋緑地の最高部大蔵山から眺める素晴らしい景色などを観察します。

**日時:** 2017 年 10 月 29 日(日) 9:30~12:00  
(受付は、9:00 から)

**集合場所:** 岩屋緑地芝生広場



☆詳細は、下記の HP をご覧下さい。

<http://www.higashimikawa-shizen>



内容は計画中ですが、東三河の特産品を利用した豪華(!?)メニューの予定です。

アウトドア料理ですから、MY 箸、MY カップ、MY 食器持参をお願いいたします。また、差し入れも大歓迎いたします。

それじゃあ、10月29日には  
待っとるで、気をつけておいでんよ。

(東三河支部一同)

## センス・オブ・ワンダー キッズ自然観察会

名古屋支部 石樽純子

7月15、16日、美浜少年自然の家でキッズ自然観察会を開催しました。子ども向けのプログラムの実施とともに、子どもに対応する指導者としてのスキルアップを目指すものでした。本講座は協議会会長の肝入りで「あいち森と緑づくり環境活動推進事業」の交付金を受けて実施しました。一般募集は苦戦しましたが、「地球ハグ倶楽部」の多大な協力を得て、定員をはるかに超える申し込みを受け入れ、総勢53名11家族の参加があり、盛会となりました。

天候にも恵まれ、磯遊び(海の色合わせ)、神社・道中での自然観察(ビンゴ)、夜の森(ライトトラップ)、夜の海辺(ウミホタル捕獲トラップ)、土星と木星および星座観察、早朝の森(バナナトラップ)、クラフト(海岸の石ころ彩色)など、盛りだくさんのプログラムをすべてこなし、参加者親子は大満足でした。

参加された子どもたちの親御さんからは、「想定され用意された遊びではなく、



子どもが自然は思い通りにならないという経験をする面白さを見た」「感動を共有することで、会ったばかりの友達とすぐに仲良く遊んでいた」「子どもの興味の多様性がわかった。自然を相手にしていると何にでも楽しみを見いだせる」「驚きに対するリアクションがいつもとは違った。じっとしていても、何かを見つめて集中していた」「答えがないままでも感動したことを伝えられればよい」「親が体験したことしか子どもに伝えることができない」「忙しいとは、心を亡くすること。子どもの集中の時間を乱さないために、生活を見直したい」「同じ趣味の

友達を作るために、親もこういうイベントに参加したい」等々、多くの感想があり、指導員の参加者側からも「子どもの目線を共有すると、感動も共有できる」「子どもたちの元気な声を聞けるだけでうれしかった」「子どもが熱中している時間は神様がくれた宿題をしている時間だから邪魔をしない」などの声が聞かれました。

講師陣からは、「答えにつながる誘導の仕方、答えを予測した言葉掛けや、そのためのタイムマネジメントが大切」「子どもが生き生きする観察会をやりましょう」「自然との遊び方、そのやり方を教えたい。」それで「いつでも、どこでも、誰とでも」の観察会にしたいとのことでした。

皆さんの観察会には、子どもの参加はどのくらいでしょうか？子どもを集めるには、その親である若い世代、特に母親の関心を引き付けることが重要です。若い親の世代も、実は自然のことをほとんど知らない人が多いのです。だから、「子育てのスタイルのひとつとして」親を巻き込むプログラムを提案していくような積極的な発想が必要かもしれません。都市型の生活をして、自然のしくみから遠ざかってしまっている子どもたちに、あたりまえの自然に触れる機会を増やすことが先決問題かもしれません。このたび他団体とコラボできたことは、発想転換のための大きな一歩だったと思います。



## 新緑の雑木林

名古屋支部 滝田久憲

名古屋支部では、今年度のあいちの自然観察会を5月20日(土)に名古屋市千種区にある茶屋ヶ坂公園で実施しました。この観察会は、毎年名古屋市環境局環境学習センターと協働で実施している「ふるさと親子自然観察会」を兼ねています。

会場となった茶屋ヶ坂公園は千種区の北西部に位置する大きな都市公園で、中には野球場や遊園地、ため池などの水辺や雑木林などがあります。また近年では千種区の事業として、アジサイの約4,000株が植栽され、ボランティアなどによって管理されています。

このあいちの自然観察会は、名古屋の自然を見直そうという事で、これまで定例観察会地以外の場所で実施してきました。ところが、この茶屋ヶ坂公園では名古屋支部の会員によって、今年の4月から定例観察会が立ち上げられました。そこで、今回のあいちの自然観察会は、この観察会を皆さんに知って頂く目的もあって、ここで実施することになりました。

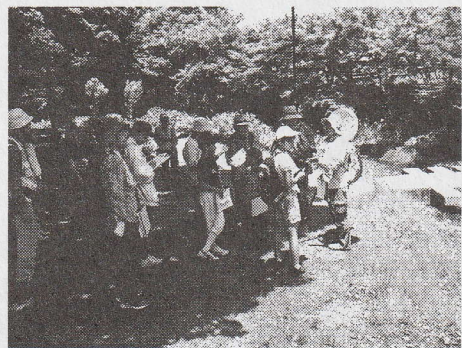
5月14日には、スタッフで下見を行い、プログラムの進め方などを検討しました。五感を使って、茶屋ヶ坂公園の自然に触れてもらうために、参加者にネイチャービンゴをやってもらうことにしました。また雑木林の中は正に新緑の真っ只中ということで、多様な緑に触れてもらうために日本の緑に関する伝統色を集めたカラーチャート紙を配布することにしました。

観察会当日は、天気も良く、絶好の自然観察日和となりました。参加者は一般10名(内、子供4名)、スタッフ9名、行政1名の計20名でした。

午前9時30分を少し過ぎた頃に観察会が始まりました。簡単な主催者の挨拶と参加者全員の自己紹介を行いました。

そして、スタッフから当日の進め方や注意事項などの説明の後、森の中に入りました。参加者は早速、ビンゴ表に書かれた9項目に該当するものを探し始めました。森の中に作られた散策路を進むと、子供たちは色々なものを見つけてくれました。土壌の生き物を見つけると、図鑑を見ながら名前を探しました。虫こぶを見つけると、ナイフでカットし、中の幼虫を観察しました。アオスジアゲハやクロアゲハなどを捕獲して、観察しました。最後に通ったため池では、子供たちはスイカズラの甘い蜜に舌鼓を打っていました。出発地点に戻ってきた時に、子供たちに完成したビンゴ表を見せてもらいましたが、1人の子供はビンゴ表の中央にある「すきなところ」に何も書かれていませんでした。きっと、多すぎて書けなかったのだと思います。

茶屋ヶ坂公園の森には、アベマキなどのどんぐりの木も多く、里山の面影が残った場所でした。スタッフ一同、茶屋ヶ坂公園の自然の豊かさを再認識し、後世につないで行く事の大切さを実感しました。



▲水辺の生き物観察風景

## 親睦研修旅行 福井県敦賀の自然をたずねて

知多支部 牧野 靖子

日 時 2017年5月27日(土)～28(日)

場 所 福井県敦賀

参加者 12名

### 【内 容】

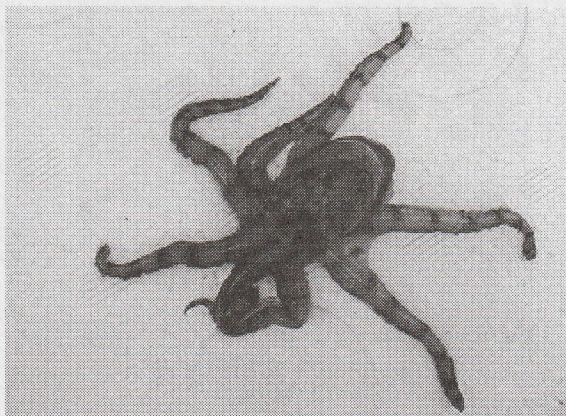
<1日目> 中池見湿地→敦賀半島縄間

<2日目> 水晶浜→白木→池河内湿地

敦賀市にある中池見湿地は、複数回の断層運動によってできた地形で泥炭層の厚さ、生物の多様性などからラムサール条約登録湿地となった貴重な自然の残るところです。

まずスタッフの方より概要説明を受け、その後は湿原内を、じっくり時間をかけて楽しみました。希少植物のデンジソウ、ヒメビシとその種、花の終わったミツガシワ、花が終わりに近づいたサワオグルマの花、カキツバタ。湿地の生き物は田んぼの中のおたまジャクシ、小さなカエルやドジョウの赤ちゃん、タニシ、メダカ、モリアオガエルにも出会いました。

次に宿泊先となる敦賀半島縄間へ移動。宿泊先近くの堤防から海の生き物の観察をしました。小さな魚たちやナマコ、ヒトデなどを網ですくい確認。珍しいものとしては、「ヒョウモンダコ」、刺激すると体の色が瞬時に変わります。鳥の羽のような「シロガヤ」、ともに触ると危険だそうです。



2日目は、水晶浜と白木でビーチコーミング。水晶浜は、サイクリングイベント開催中。浜はワカメなどの海藻、産卵にきたアメフラシとその卵などがありました。白木ではエボシガイが蔓脚を動かしている様子を見ることができました。また、海浜植物のハマヒルガオ、ハマボッサにアサギマダラが1頭、ハマニンニク、ハマサオトメカズラなどを確認。



その後、敦賀市を流れる笙の川の源流部になる池河内湿原へ。木道はあるものの途中壊れた箇所などもあるワイルドで冒険心をかき立てられるような湿地です。植物はハンノキが多く、カキツバタ、サワオグルマ、ヤナギトラノオ、コウホネの花が咲いていました。昆虫は、ウスバシロチョウ、幾種類ものトンボ、特にカワトンボの多さにはびっくり。湿地の中には、メダカやハゼ類のような小さな小魚、アカハライモリ、川ではナガレホトケドジョウ(?)を見ることができました。

2日間にわたり湿地を中心にたくさんの動植物との出会いがあり充実した時間を過ごすことができました。

## お箸、菜箸

名古屋支部 高木和彦



第二回も読者の皆さんが中学生等に竹クラフトを教える場面に役立つと思われる内容を記載します。

今回はお箸、菜箸を紹介します。単純な形ですが、竹クラフト特有の基本技能（ナタ、ナイフの取り扱い）が入ります。

形状・長さ共に好みがあり、決まった物は有りません。お箸の例として、長さ 23cm、断面形状は先端が丸、持つ所は四角で面取りした形。菜箸は 30cm 弱の物ともっと長い物 2 種類あると良いそうです。節有りが良いか無しが良いかも好みです。色々作ってみるのも楽しみです。

材料は出来るだけ肉厚のマダケを使います。モウソウチクでも問題は無いようです。出来るだけ真っ直ぐな材料を選びます。曲がっている物でも熱をかけて許容範囲に入れる事は出来ますが、結構手間がかかります。ナタは刃が対称の物を使います。非対称のナタは真っ直ぐに割る事が難しい為です。ナイフは普通の切出しナイフを使います。私は娘が小学校で買った物を研いで使っています。カッターナイフは剛性が無い為、綺麗な切断面を作る事が難しいので普通は使いません。

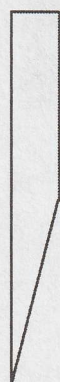
ナタは指を落とす威力があります。絶対に勢いを付けて使いません。割る所に合わせて、木槌等で背を叩いて割ります。金属で叩くとナタを痛めるので、金槌は使いません。床や台を傷つけないように必ずナタ台（普通は木製）を使用します。

ナイフの削り方は大きく 2 種類あります。一つは鉛筆削りの要領です。短い距離を削る時の方法です。もうひとつは、恐らく竹

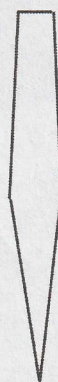
クラフト独特の削り方です。膝とナイフの刃で竹を挟んで、竹を動かして削ります。刃の角度を変える事によって厚く削ったり薄く削ったりする事が出来ます。刃の角度を色々変えて削らせてみて下さい。ポイントは竹を挟み込む事と、空中で削らない事です。

削り出しの位置を変えてテーパーにして行き、欲しい形に仕上げて行きます。上手く削れるようになれば、サンドペーパーの細かい物を当てるよりも滑らかな表面が出来るようになります。

次回は、お正月の直前ですので、ミニ門松を取り上げます。



片刃の断面

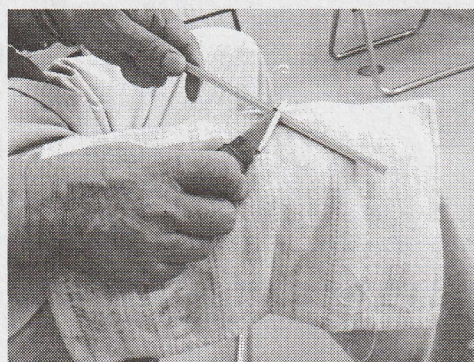


両刃の断面



▲ナタの断面形状

▲ナタで割っている所



▲ナイフの使い方

## フィールド今昔 犬山市の里山・善師野

尾張支部 平井直人

善師野は愛知県自然観察指導員連絡協議会会長を務めていただいていた故大竹勝氏のフィールドで、30年も前から豊かな自然が残る里山として多彩な自然を紹介されていました。尾張支部も、犬山駅から広見線で2駅という交通の便を生かして、犬山市の子供会の観察会を定期的を開催したり、月例観察会として定光寺と交互に実施したりしていたこともありました。そして、1995年12月から現在の定例観察会が始まりました。



▲畔に見られるオグルマ

善師野の見どころは地元の方々が管理している里山の自然です。善師野の水田では昔から畔を大切にしていたようで、丈夫な畔にするために、多くの方が除草剤ではなく刈り払い機で管理されています。そのおかげで水田植物が豊富で、畔ではオグルマを見ることができます。

その一方で大きな開発がありました。広域団地「四季の丘」の造成がはじまったのが1997年です。化石の露頭があった森は削られ、トラフカミキリがいたクワ畑がなくなり、立派なアラカシの森だった白山神社の森が半分になりました。そして野鳥の数は確実に減り、団地から流れる川からオイカワがいなくなりました。

大洞池は今でも現役の水田用ため池で、

静かな森の中にあります。定期的に水を抜き、水質管理を行っているエメラルドグリーンの池ですが、近年ここもルアーフィッシングの場所として目を付けられ、池にはブラックバス、ブルーギルが泳ぎ回っています。水を抜いているのにいなくなることはありません。誰かが池に放流しているのでしょうか考えられません。以前は水際でコバンビケラやホソバトビケラなどの水生昆虫を見つけて大喜びした場所だったのに。



▲犬山の美しさ 大洞池

しかし、地元の方々が生活のために管理を続けていることで維持されている善師野の里山で、ここ数年大きな変化が出てきました。シイタケ栽培のために広域で伐採が行われ、林の更新が起こったり、タケノコを採るために荒れた竹林での間引きが行われ、美しい竹林によみがえったり、若いグループが水田管理を行ったりと、里山の管理が広がりつつあります。



▲よみがえった竹林

# ヒアリ *Solenopsis invicta* の見分け方と対処法

調査・保全担当 瀧崎 吉伸

## 1 見分け方

- ・ 全身が赤茶色(腹部の先は暗色)で3～6mmと比較的大きい(日本産の赤茶色のアリ(同属のトフシアリなど)は1～3mmと小さい)
- ・ 働き蟻の大きさが3～6mmまで連続的に変化する(兵アリはいない)
- ・ いろいろな大きさの赤いアリが行列を作っていたら疑い大。
- ・ 腰の背中側に二つのコブがある(腹柄は2節)
- ・ 頭は極端に大きくない(類似の在来種オオズアリは、頭部が明らかに大きい)
- ・ 触覚が10節。先端の2節が長く、棍棒状で終わる。複眼は15個以上の個眼からなる。
- ・ 頭盾前縁中央に小突起(口元真ん中に小突起)尾端がとがり、針がある。
- ・ 巣は直径25～60cm、高さ15～50cmの蟻塚。触ると危険。

## 2 対処法

- ・ 見つけたら必ず中部地方環境事務所(☎052-955-2130)か自治体に連絡する。
- ・ 少数個体なら市販のアリ用殺虫剤を用いて殺し、標本にしておく。(確認用に死骸を保存する)
- ・ 巣があったら毒餌を置く。

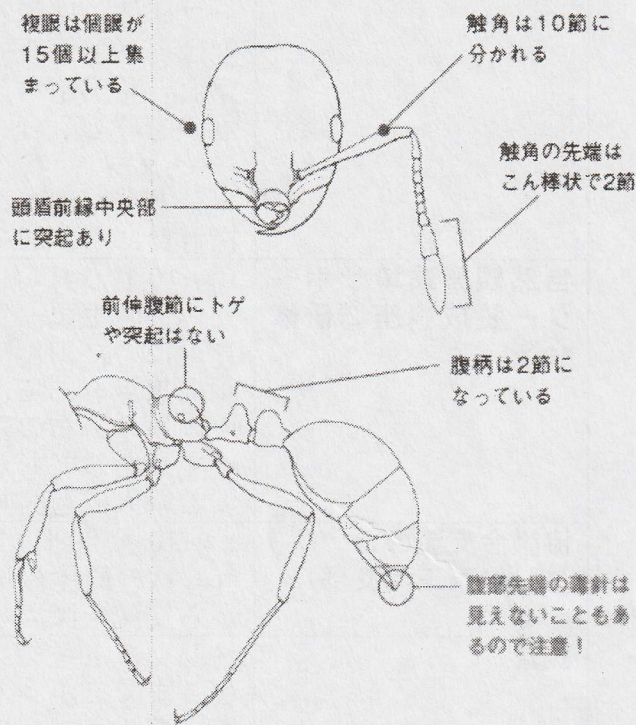
## 3 刺されたら

- ・ 基本的にはアシナガバチに刺された時と同じだが、ヒアリは何度も繰り返し刺す傾向があるので注意する。
- ・ 抗ヒスタミン剤など、虫刺されの薬が有効。ポイズンリムーバーがあれば刺された直後に使う。
- ・ しばらく安静にし、万が一、声がれ・

めまい・悪心・激しい動悸・息苦しさなどが生じたら救急車を呼ぶ(ヒアリに刺されてアナフィラキシーショックの恐れがあると伝える)。

## 4 してはならないこと

アリを怖がって、在来のアリを殺してしまうこと。アリは縄張り意識が強く、他の種のアリの侵入を防ごうとする。在来種がいなくなればニッチが空いて、移入種が定着しやすくなるため。



▲ヒアリを見分けるポイント

## 5 引用資料

環境省 HP、JIUSSI (国際社会性昆虫学会日本地区会) HP など

## 平成 29 年度 第 2 回理事会 報告

日 時：平成 29 年 5 月 5 日(金・祝)13:30～ 場所：名古屋市音楽プラザ  
出席者：大谷、星野、堀田、石原、長谷川、久米、永田、布目、石川、瀧崎、浅井、  
齋竹、滝田、榊原、岩崎、河江、

### ◆活動報告(3月～5月)及び今後の事業予定(5月～7月)

#### ◆議案 事業日程

##### 研修会

| 実施日                     | 時間   | 実施場所              | 集合場所                | 担当支部 |
|-------------------------|------|-------------------|---------------------|------|
| 5 月 27 日(土)<br>～28 日(日) | 7:00 | 福井県敦賀方面中池<br>見湿地他 | 東海市市役所駐車場大池<br>テニス場 | 知 多  |

##### <主な確認事項>

|                        |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
|------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 自然観察サポーター<br>養成講座①講習会※ | 日時：7 月 15 日(土)～16 日(日) 場所：愛知県美浜少年自然の家<br>テーマ：「子どものための自然観察会」の指導者養成<br>当協議会が「あいち森と緑づくり環境活動推進事業」交付金を受け、愛知県主催の「自然観察指導員講習会」と「フォローアップ研修」に代わる研修の企画・運営を行うこととなり、今年度は、子どもを対象にした観察会の手法を学ぶ「キッズ自然観察会」を実施する。自然体験を通して、子どもの感性を磨き、危険を学び、不思議さへの気づきを提案することから「センス・オブ・ワンダー キッズ自然観察会」とした。<br>子どもだけでなく、子どもの自然観察に興味のある自然観察指導員にも参加を呼びかける。 |
| 自然観察環境サポーター養成講座②研修会※   | 日時：10 月 9 日(月・祝)13:30～ 場所：ウインクあいち<br>テーマ：両生類・生態研修会 講師：島田知彦氏(愛知教育大学)<br>身近にいた田んぼのカエルがなぜ減少したのか。田んぼのカエルに焦点をあて、基本的な分類、また名古屋市内に暮らすヒキガエルの分布の変遷に関する研究のまとめからヒキガエルについて話をしてもらったらどうかということになった。<br>若い人にも興味を持てる話をしたいとの意見がでた。                                                                                                  |
| 協議会交流の日<br>(担当：東三河支部)  | 日時：10 月 29 日(日)9:30 場所：豊橋市大岩町岩屋緑地<br>内容：秋の岩屋緑地でドングリを探す。その後は、昼食をとりながら交流を深める。                                                                                                                                                                                                                                      |
| 調査                     | メリケントキンソウについて(154 号 p.7 参照)<br>どこまで広がっているかを担当者から聞く。見つけた場合は、写真を添えて、担当者まで連絡する。                                                                                                                                                                                                                                     |
| 名簿管理                   | 個人会員は合計 340 名、家族会員 10 名(2017 年 4 月 16 日現在)<br>年会費の納入期限 7 月末。入退会者がある場合は担当者まで連絡。当面は、大谷会長まで連絡する。                                                                                                                                                                                                                    |
| 保険                     | レクリエーション傷害保険 3000 名見込み(155 号に折込んだ)                                                                                                                                                                                                                                                                               |
| 編集会議                   | 日時：5 月 28 日(日)に開催予定。大谷会長同席予定。                                                                                                                                                                                                                                                                                    |

※「あいち森と緑づくり事業」交付金対象事業

##### <その他>

- ・次回理事会(第 3 回) 日時：7 月 17 日(月・祝)13:30～  
場所：岩倉市生涯学習センター会議室 1 (尾張支部担当)

## 平成 29 年度 第 3 回理事会 報告

日 時：平成 29 年 7 月 17 日(月・祝)13:30～ 場所：岩倉市生涯学習センター  
出席者：大谷、星野、堀田、石原、長谷川、永田、布目、新山、瀧崎、浅井、  
齋竹、滝田、榊原、三田、岩崎、河江、

### ◆大谷会長より

自然環境サポーター養成講座①「センス・オブ・ワンダー」キッズ自然観察会に募集開始当初は、人数が集まらず大変だったが、お母さんたちのネットワークのおかげで定員 30 名のところ約 50 名も集まり、夕日をみたり、夜に昆虫採集をしたり、有意義なキッズ観察会ができた。(詳細は協議会ニュース 156 号 p 4)

### ◆活動報告(5月～7月)及び今後の事業予定(7月～11月)

### ◆議案

#### <主な確認事項>

|                                  |                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
|----------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 自然環境サポーター養成講座②研修会※               | 日時:10 月 9 日(月・祝)13:30～ 場所:ウインクあいち<br>テーマ:両生類・生態研修会 講師:島田知彦氏(愛知教育大学)<br>人と両生類が出会う場所、水田を主な舞台として、そこに暮らすカエルたちの分類と自然史について紹介する。その後質の高い観察会にするための情報交換会を行う。詳細は p 2。                                                                                                                       |
| 協議会交流の日<br>(担当:東三河支部)<br>午前は連携事業 | 日時:10 月 29 日(日)9:30 場所:豊橋市大岩町岩屋緑地<br>内容:秋の岩屋緑地でドングリを探す。その後は、昼食をとりながら交流を深める。詳細は p 3。                                                                                                                                                                                              |
| 調査                               | メリケントキンソウのその後は、拡がっている。ヒアリ報道で、ヒアリの対応をどうするかという話になってしまった。ヒアリについて書いてもらうことにした。 p 7                                                                                                                                                                                                    |
| 編集会議                             | 5 月 28 日(日)、大谷会長が出席。昨年度は開かれなかった。協議会ニュースは、編集委員任せになっている。もっと理事会として関わる必要があるのではないかな。                                                                                                                                                                                                  |
| 受託事業                             | 名古屋市立萩山中学校から申請有り。理事会として受理。<br>日時:10 月 3 日(火)9:30～12:30～(集合 9:15)<br>場所:名古屋市稲武野外教育センター第 1 本館前から面の木園地(4km)まで 10:00～12:30 2 年生 6 クラス 231 名<br>リーダー 18 名募集(リーダー一人当たり 12～13 名)<br>雨の場合は、稲武の自然の話と工作教室。9 月に下見の予定。<br>生き物の名前にこだわらず、自然林と人工林の違いなど何を伝えるかを指導員が共有して欲しい。協議会ニュース 156 号にチラシ同封予定。 |

※「あいち森と緑づくり事業」交付金対象事業

### ●「あいち海上の森フォーラム」の件

愛知万博の継承事業「人と自然の共生国際フォーラム」が「あいち海上の森フォーラム」に生まれ変わり、県協議会として団体加入することを理事会で了承した。

協議会交流の日の午前の自然観察会を連携事業として申請して認められた。

### ●2018 年度の理事の満期による交代について

各支部で、責任をもって理事交代を行ってほしい。会計・編集委員などの役員推薦について強い要望があった。

### ●「2018 年度自然観察指導員講習会」開催に向けて

来年度は、指導員講習会を愛知県で開催しようと理事会で決定したが、三重県でも開催予定の情報が入り再検討することとなった。自然観察指導員講習会の意義を確認しあい、多くの人に参加できる開催場所、参加費とするよう、大谷会長、堀田副会長、石原事務局長、瀧崎理事の 4 人を指導員講習会担当とした。

・次回 第 4 回理事会 (11 月 23 日(木・祝)13:30～ 知多支部担当

# \*\*\*\*\* 行 事 案 内 \*\*\*\*\*

| 区分                     | 日時                      | 内容                                          | 場所             | 集合場所                        | 担当  |
|------------------------|-------------------------|---------------------------------------------|----------------|-----------------------------|-----|
| あいちの<br>自然観察会          | 9/24(日)<br>9:30～11:30   | ビーチコーミングで<br>海の漂着物を楽しもう                     | 蒲池海岸           | 9:30蒲池漁港                    | 知 多 |
| 協議会交流<br>の日            | 10/29(日)<br>9:30～12:00  | 秋の岩屋緑地でドン<br>グりをさがそう！(詳細は<br>p.3をご覧ください)    | 岩屋緑地           | 9:30芝生広場<br>(受付は9:00<br>から) | 東三河 |
| 研修会                    | 9/30(土)<br>9:30～12:00   | トラップを使った<br>昆虫等の観察                          | 定光寺            | 9:30定光寺公<br>園第3駐車場          | 尾 張 |
|                        | 11/3(金・祝)<br>8:00～16:00 | 茶臼山高原の秋の草木<br>観察会                           | 豊根村            | 8:00地下鉄本<br>郷ターミナル北側        | 名古屋 |
| 自然環境<br>サポーター<br>養成講座② | 10/9(日)<br>13:30～16:30  | 身近な生き物「カエル」<br>から見る生物多様性(詳<br>細はp.2をご覧ください) | ウィンクあいち13階1302 |                             | 協議会 |

## ～新しく協議会に加わった会員からのメッセージをご紹介します～

このたび連絡協議会に加入させていただきました、立脇隆文と申します。野生哺乳類の基礎生態や、保安全管理に興味をもって調査・研究しています。指導員として、哺乳類だけでなく他の分類群についても広く学び、愛知の自然の魅力を伝えていきたいと思いますので、みなさまどうぞよろしくお願いいたします。(東三河支部 立脇 隆文会員)  
今後とも、よろしくお願いします！

【編集部から】あなたが撮影した写真や描いたイラストを募集します！会員の皆様からお送りいただいた写真やイラストを表紙に掲載します。皆様が撮影又は描かれた観察会や生きものの、写真やイラストの電子データとタイトルをメールで編集部にお送りください。

### <編集後記>

協議会ニュース NO.156 号が完成しました。ご協力ありがとうございました。  
話題の「ヒアリ」をとりあげています。フィールドでは覚えきれないほどの多くの外来生物が定着しています。色々なルートで入った多種の植物、昆虫類、クモ類、貝類やフィッシング対象で放流したブラックバスなどの魚類、ペット放棄の両生類、爬虫類、鳥類や哺乳類。何等かの形で人が介在し、近年ではその事例が急激に増加しています。一人ひとりがとるべき行動を考える必要がありますね。(馬場)

### 編集スタッフ

岡田雅子 久米未祐 馬場隆之 日浦誠章

### 協議会ニュース編集部

久米未祐 TEL:090-3302-1621 E-mail:ni.saboten@gmail.com

愛知県自然観察指導員連絡協議会(あいち自然観察会)事務局 石原則義  
〒464-0096 名古屋市千種区下方町7-3 TEL/FAX : 052-711-3087  
E-mail: norinameobata@yahoo.co.jp Web Page: http://naichi.net  
郵便振替口座: 00820-9-6546 (名義: 愛知県自然観察指導員連絡協議会)